

# 第1回 組門徒会研修会報告 (取材 広報部)

去る10月16日(土)19時00分より、第1回組門徒会研修会が明楽寺(木之本)にて開催されました。秋風が吹き少々肌寒く感じられる中ではありましたが、各寺院から約40名が参加されました。山岡組門徒会長挨拶の後、長浜教区派遣講師に春近寛師(第14組 皆念寺住職)をお迎えし、「宗派のしくみ」―「本山」「教区」「組」「寺院」―とのテーマでお話を頂きました。

この研修会は、3月の改選によって各寺から新しく選出された組門徒会員を対象とした、教区主催の事業で、3年の任期中6回の研修を受講していただくものです。

第1回の内容は、①真宗大谷派の寺院のしくみ②真宗大谷派の組織機構③浄財について④相続講について⑤教区改編についての、お話でした。対象は門徒の方ですが、宗門人として基本的な知識を学んでいただきたいという願いもあり、今回から住職、寺族の方にも参加を呼び掛けられ、6人の住職が出席されました。

講師から真宗大谷派の寺院のしくみ(お寺の在り方)として、寺院、門徒、住職、責任役員、総代および組門徒会の位置づけやその役割について、様々な事例をご紹介いただきながらご説明いただきました。単なる役職ではなく、それぞれに大谷派規則や寺院規則に則った重要な責任ある役職であることが確認されました。個人の立場ではなく、代表者の自覚をもって公の役職として勤めなければならないこととお話しされました。

大谷派の組織機構では、国と同じように、司法機関、行政機関、立法機関があり、行政機関では全国約8500ヶ寺を包括し、宗務総長や5人の参務によって行政が執行されていること、長浜教区では、387の米原市・長浜市・敦賀市のお寺が14の組に区分されていることや、立法機関では宗議会(僧侶代表の議員65人)・参議会(門徒代表の議員65人)で宗会が構成され、長浜教区からはそれぞれ2名の議員が選出されていることなどについて詳しくお話しされました。

また、相続講については、明治の時代から始まったもので、京の大火災の延焼などにより焼失した東本願寺の再建のため、全国の門徒に懇志を募り、門徒をあげて護持する体制を作る必要があり、講を開き「講金」を募り本山に送金したとの説明がありました。

その他にも、来年に迫っている京都教区との合併問題、いわゆる教区改編の問題にも言及され、現在中央委員会から示された試案を基に、教区改編委員会「地方協議会」において、長浜、京都の両教区の教区会及び教区門徒会で議案として付記する「合意書」の協議が進められていることが報告されました。限られた時間の中で、ご自身の経験等もお話されてわかりやすく講義頂き、有意義な研修会でした。

最後になりましたが、準備等ご協力頂きました明楽寺門徒役員の皆様方に、御礼申し上げます。第2回は、来年3月12日(土)午後2時から明徳寺(黒田)で開催の予定です。



明楽寺で講義を聞く受講者



講師の春近寛氏

苦が外からついてくると思っている間は 苦は無くならない

真宗大谷派 長浜教区 11・12月号

# 第24 広報

発行日  
2021年11月1日  
第204号  
発行責任者  
組長 熊野 俊史

## 本山(京都・東本願寺)報恩講のご案内

今年も、真宗本廟(京都・東本願寺)では「報恩講」が勤まります。報恩講は、宗祖親鸞聖人の御祥月命日に勤まる法要で、真宗門徒にとって1年でもっとも大切に中心なる仏事です。

東本願寺では、来る**11月21日(日)から28日(日)**までの8日間にわたり勤まります。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、内容が変更される場合がありますが、ご参拝の時には、下記についてご理解・ご協力くださるようお願いいたします。(詳細は同朋新聞を参照)

- \*参拝者の間隔を保つため、御影堂は原則として椅子席になります。
- \*参拝いただく際は、必ずマスクを着用ください。
- \*境内各所に消毒用アルコールを設置していますので、手指の消毒をお願いします。
- \*移動・参拝の際は、密集を避け、互いになるべく距離を空けるようお願いします。
- \*混雑を避けるため、堂内は入退堂のルートを設定しますので、ご協力ください。
- \*入堂時には検温にご協力ください。
- \*御影堂・阿弥陀堂とも定期的に換気をします。各自防寒対策をお願いします。
- \*体調に異変がある場合は、参拝をお控えください。

### [報恩講について]

宗祖親鸞聖人は、1262(弘長2年)11月28日に、90歳のご生涯を終えられました。親鸞聖人をはじめ、念仏の教えに生きられた先達に思いをいたし、その恩徳に感謝し報いる法要が報恩講です。お念仏の教えを聴聞し、自らの生活を振り返る、1年でもっとも大切な御仏事として、全国各地の寺院・教会をはじめ、ご門徒の家々においても勤められており、「お取越」「お引上」の名でも親しまれています。

「お取越」とは、ご門徒の家々における報恩講の別称です。親鸞聖人の御命日が巡ってくる前に取り越して勤めることからそう呼ばれており、「お引上」も同様の意味です。

報恩講は、人々が寄り合い、お齋をいただくなど、共にふれ合いつつ聞法する場として、今日まで脈々と勤められてきています。



真宗大谷派 長浜教区第24組 ホームページ  
<http://nagahamakyōku24.main.jp>

不安や苦悩のない人生などない 不安や苦悩があるから 人生は深められる

# 教区・別院・各寺の行事紹介

\*届け出寺院のみ掲載

寺院	法座名	日 時	法 話 者
浄教寺	報恩講	12月3日(金)～5日(日)	4日—太田浩司氏
恩覚寺	報恩講	11月13日(土)から14日(日)	住職
覚勝寺	報恩講	11月13日(土)から14日(日)	住職
了覚寺	報恩講	11月13日(土)から14日(日)	
充滿寺	報恩講	11月5日(金)から7日(日)	住職
覚念寺	報恩講	11月7日(日) 13時	住職
圓行寺	報恩講	11月5日(金)から7日(日)	住職・若院
隨願寺	永代経	11月6日(土) 10時30分・13時30分	住職
	報恩講	11月7日(日) 10時30分・13時30分	住職
双林寺	報恩講	11月22日(月) 13時～	住職
猶存寺	報恩講	11月26日(金)から28日(日)	住職
長照寺	報恩講	11月22日(月)から23日(火)	高岡淳氏・住職・副住職
圓常寺	報恩講	11月13日(土)から14日(日)	住職
来入寺	報恩講	11月13日(土)から14日(日)	住職
明德寺	報恩講	11月12日(金)から14日(日)	住職・前住職
樹徳寺	報恩講	11月5日(金)から7日(日)	秦 信映氏
誓海寺	報恩講	11月13日(土)から14日(日)	住職
明源寺	報恩講	11月7日(日) 午前9時	住職

## 宗祖親鸞聖人御誕生八百五十回・立教開宗八百年

### 長浜教区慶讃法要お待ち受け大会

慶讃法要テーマ **南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう**  
—真の朋友との値遇を求めて—

長浜教区では、来る2023年にお迎えする「宗祖御誕生八百五十回・立教開宗八百年」法要に先立って、来年(2022)5月22日(日)に長浜別院大通寺で「お待ち受け大会」が開催されます。

ご門首や内局らが来院され、帰敬式等も行われる予定です。記念講演は伊藤元氏(北九州市小倉・徳蓮寺)にお願いされています。具体的な内容については、今後教区教化委員が中心になってスタッフ体制を整え、協議・準備が進められています。

尚、毎年五村別院で開催されます「五日会」の講演は、慶讃法要テーマを考えられた講師に来ていただき、1回目は、明年3月4日(金)「誕生を祝い」、第2回は4月5日(火)「立教開宗」、第3回は6月6日(月)「なぜ南無阿弥陀仏なのか」をテーマとしてお話をさせていただきます。いずれも午後1時30分からです。詳細については、追って広報でお知らせいたします

前号(203号)で誤字等が数か所ありましたので、下記にて訂正いたします。関係者の皆様にご迷惑をおかけしましたこととお詫びいたします。(編集部) 網掛けは、印訂正箇所

- ・3ページ下段から3行目 14組・長願寺
- ・4ページ上段から2行目 熊野俊史
- ・4ページ上段から6行目 隨願寺
- ・4ページ上段から11行目 佐々木いづみ 隨願寺

念仏は 苦悩を背負って立ち上がらせる力である

# 長浜別院(大通寺)の由来

(取材・広報部)

戦国時代のはじめ、蓮如上人のご教化によって湖北地方は「真宗王国」と呼ばれるまでになりました。その信仰の中心道場が「長浜の御坊さん」とよばれ親しまれてきたのが「大通寺」です。

天正時代の初め頃、湖北三郡(現米原市・長浜市)の僧俗が、織田信長と戦う大坂の石山本願寺支援の協議を行うため、長浜の町なかに寄合道場を設置したのが大通寺の濫觴といわれています。

天正8年(1580)3月、時の本願寺法主顕如上人と信長の間に和睦が成立しますが、法主の嫡男の教如上人は、徹底抗戦を主張して諸国に檄を發しました。教如上人への帰依親昵の情の深かった湖北の門徒は、これに応じ、教如上人とともに戦いました。

慶長7年(1602)教如上人は、徳川家康より本願寺分立の許可を得て、大谷派本願寺(東本願寺)を興されました。

これにともない長浜城の旧地に移っていた当寺は、道場から、無礙智山大通寺と号する寺院として新たに発足することになりました。しかし、慶長11年、内藤信成が長浜に移され、城地が修築されることになったため、寺地を現在の地に移し伽藍をかまえることになりました。

大通寺発足当初は、本山より僧が派遣され、三郡の有力末寺が輪番に出仕勤行していましたが、湖北教団の重要性をおもじた大谷派本願寺第13世の宣如上人により、寛永16年(1639)三男靈瑞院宣澄殿が住職として入寺されることになりました。これを契機に当寺は、彦根藩主井伊直孝の援助を得て寺域の拡大をはかるとともに、本山から広間を譲り受け、寺観の整備をはかりました。

ここに、当大通寺は、真宗大谷派の別格別院として、7000坪の境内で、名実共に当地方における信仰の中心道場として重きをなし、今日に至っています。

本堂・阿弥陀堂は、江戸初期に建立されたものです。もと伏見城の殿舎であったものが、御影堂として承応年間(1652～1654)に当寺に移して本堂としました。今は国の重要文化財に指定されています。大広間も国の重要文化財で、本堂と同様に、もと伏見城の遺構で、桃山時風御殿の豪華な趣をよく伝えています。その他にも重要文化財は、円山応挙筆の蘭亭曲水宴図がえがかれている「蘭亭」や、狩野山楽筆の山水画が描かれている。含山軒、宝暦10年(1760)に建てられた玄關があります。また県の指定をうけている南北朝時代の「梵鐘」、長浜市の指定を受けている山門・書院・脇門など貴重な建物がいっぱいあります。主な仏事として「夏中」「報恩講」等があります。是非御参詣ください。

## 【納骨のご案内】

- \*一般納骨 毎月第1日曜日・13日・28日 午前10時45分受付 11時 始経
- \*ご希望の日時をお電話にてご相談ください。
- \*申込用紙に必要事項をご記入の上、1週間前までに納骨志(故人お1人につき7万円以上)を添えてお申込ください。
- \*当日は、10分前には本堂へお越しください。納骨されたご遺骨はお返しできません。



自己過信は 孤独への道